



芳川春濤閣

きんぎょろーかえけーらんさーのまきーがきー
幻阿竹尊之間書

二編上

25

20

15

10

幻河作

吟少書

二編上の巻



上川
月種
魚

有解
文段

字書しじゆの如ごとく惑まどふ者ものあり猶なほ天地てんちの濃氣のうき人ひととして東西とうせいの
 辨わるゝと能あたはざりしむるの如ごとくとあるものぞうたまたまらん
 幻まぼろしの濃のうと押おえ所ところあり胡乱らん覚さえわたり何なにても発輝はつかりとをぬ
 怪あやしき状じやうとらと幻まぼろしといふまじりぬ然しかも竹たけが所業しよごも名なはし
 初はつ其その幻まぼろしは濃のうと痕あととをたぬ事ことの多おほくは起おこ泉いづみ子こも
 筆ふでと呻うえて呆然ぼうぜんと其その東西とうせいと辨わるゝに苦くるむ麻あしの多おほしと
 以もつて押おえ所ところあり怪あやしみの聞書ききゆ名な小生せうせいもその校閱こうえんも惑まどひ
 発輝はつかりりと添削そんせつする更さらと得えるものと以もつて跡あとと幻まぼろしのまじりしと
 知しるも固辞こごのまじりしは撰せんの云譯いんぎとん

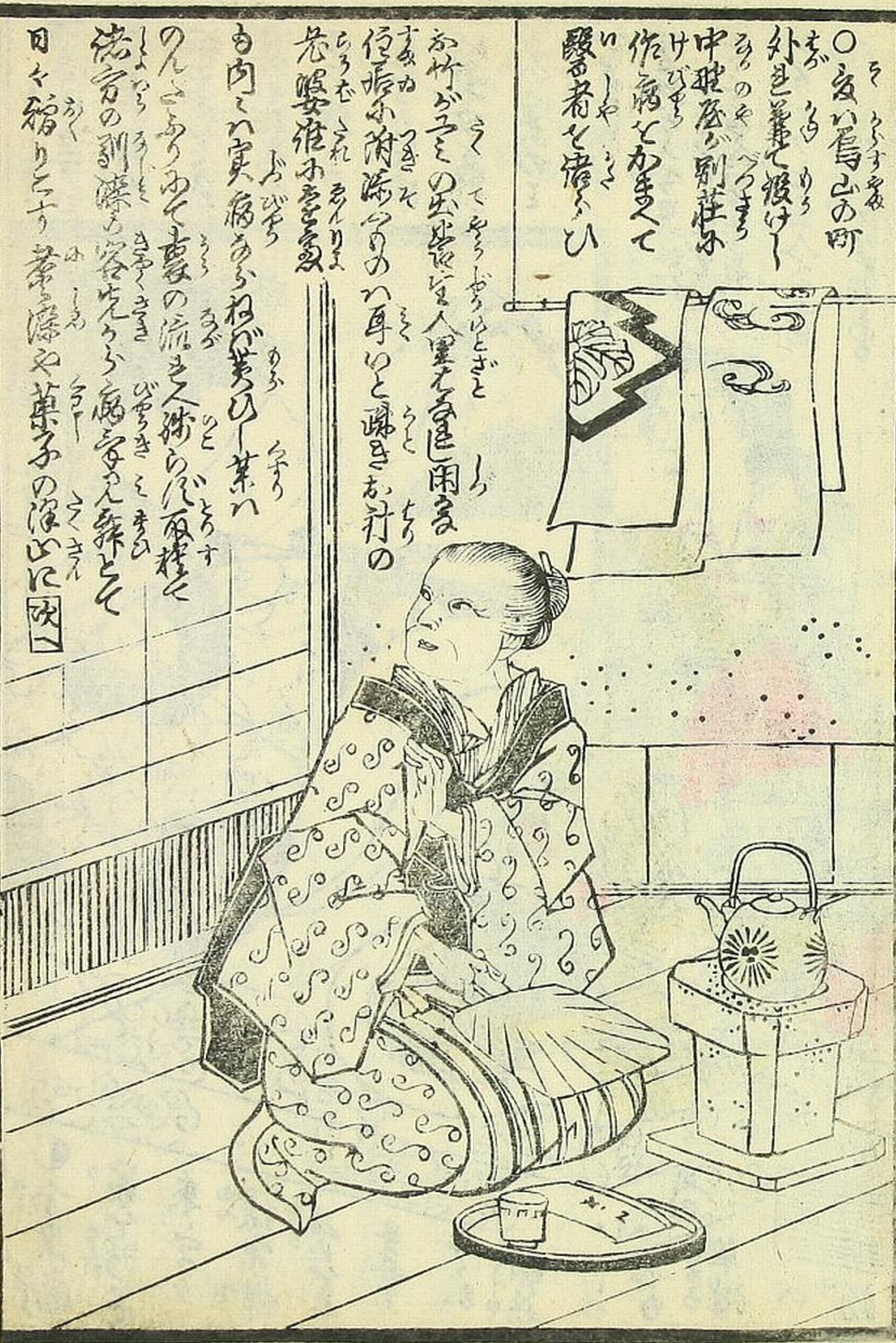
明治十四年睦月

芳川春濤題



河竹二上





○夜い馬山の町
 外は兼て後け
 中夜を別荘か
 作病とかなて
 醫者と皆い

お竹がそのお出立を人里をなほ雨ま
 位病ふ附添ふのの再いと端まお打の
 老要准おきま
 由内への実病あかね美ひ一葉の
 のんごうりめで夏の流ま之跡らるる様を
 徳言の訓際を容れんか病をん孫とて
 日々宿りこす茶と湯や菓子のはいに



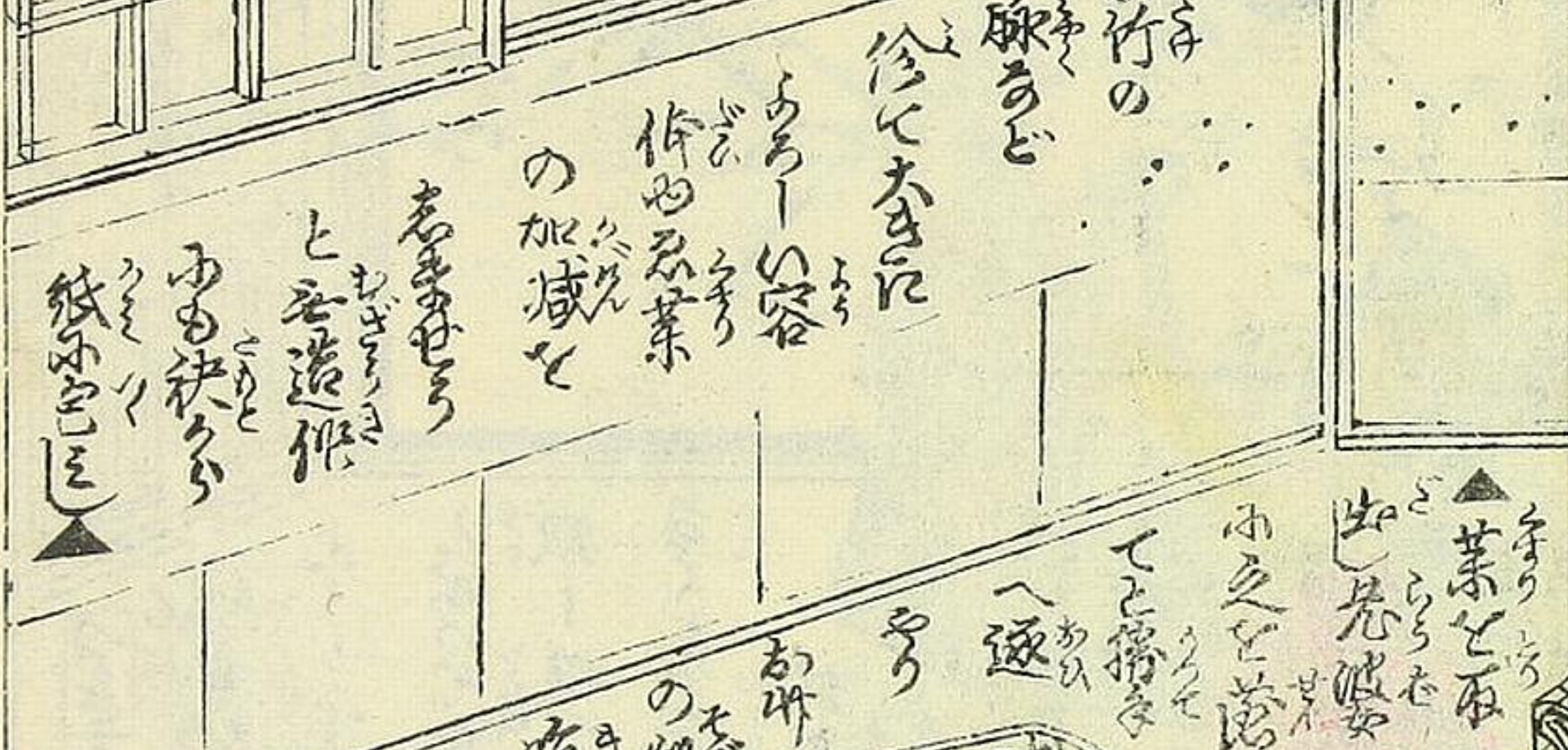
土浦町の遊び入
 奥田兼吉

中々二人
 噂され終迄
 一雨の若とよみ
 ありあそむ
 集め就きて
 ほめて終りて
 しまるものぞ
 泣小のゆくあひ
 くとまのこ
 不まは遅は
 る折る今目何
 ありあそむ
 せと衣向いそむ
 どりスソとま入る小西
 南高老婆の茶あり



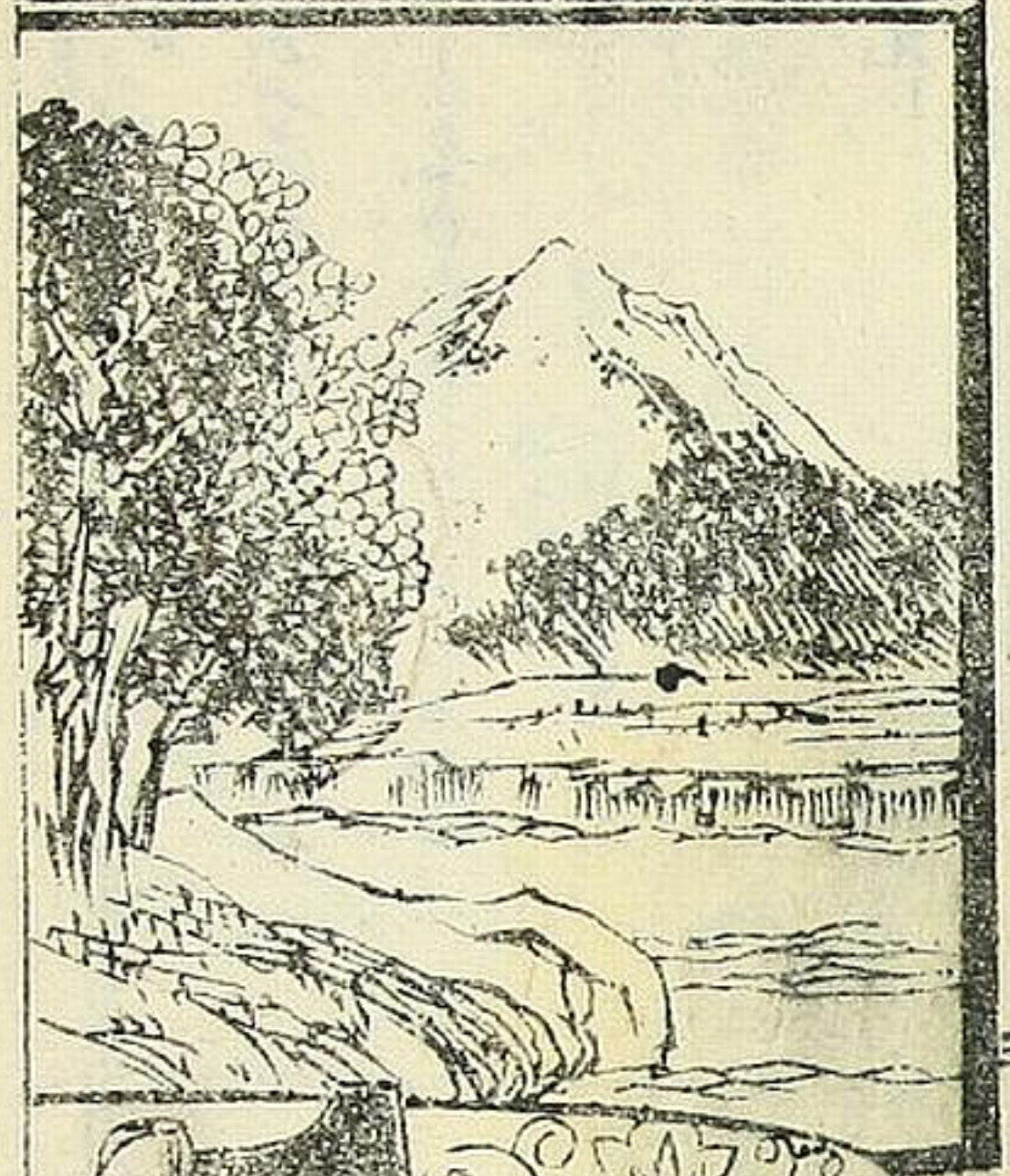
今日
 家と所と
 来つら
 縁守保
 半あま
 ませ
 草津
 の湯

のらら何の通り
 お竹の
 脈ま
 冷てあはに
 ありい容
 作ぬ茶
 の加減を
 老まむ
 とを遣係
 小の袂
 紙のし

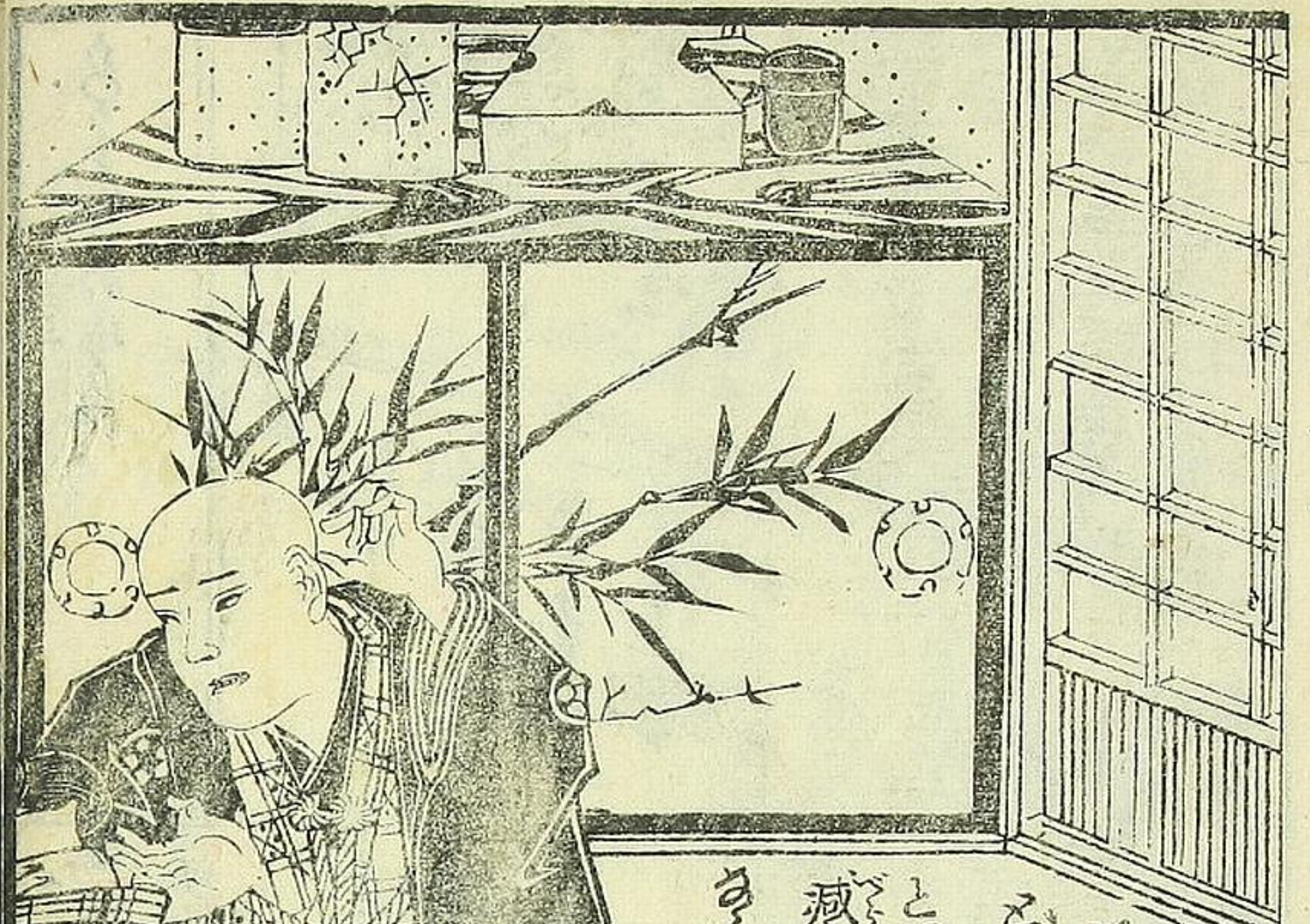


茶を
 出先
 小之を
 てと掃
 へ返
 お竹
 の例へ
 夜日
 家へ
 味そ
 面と
 家と所と
 徳子
 先生
 甘ぬ

去来地(宇業)とて女
 府と秋のよみあはれは景の先に
 おとと秋のよみあはれは景の先に
 考へて候ふもよきと候は
 余が属のりも易共かたは
 藤治
 とれ
 去来
 因
 さ



死
 考へて候ふもよきと候は
 余が属のりも易共かたは
 藤治
 とれ
 去来
 因
 さ



つきまろり 削つて
 返事とてあつていふんが
 とあつてある内田熱台でお人
 減一服をききねて冷方
 さく東条へ出て
 佐治
 上

佐治と知りつ
 大葉小内(西)の
 て智文にたは舞あ
 お茶の面がえとの
 かわらうまとの
 出下るのりも易共かたは
 藤治
 とれ

可十

五

可十

四

世々今世

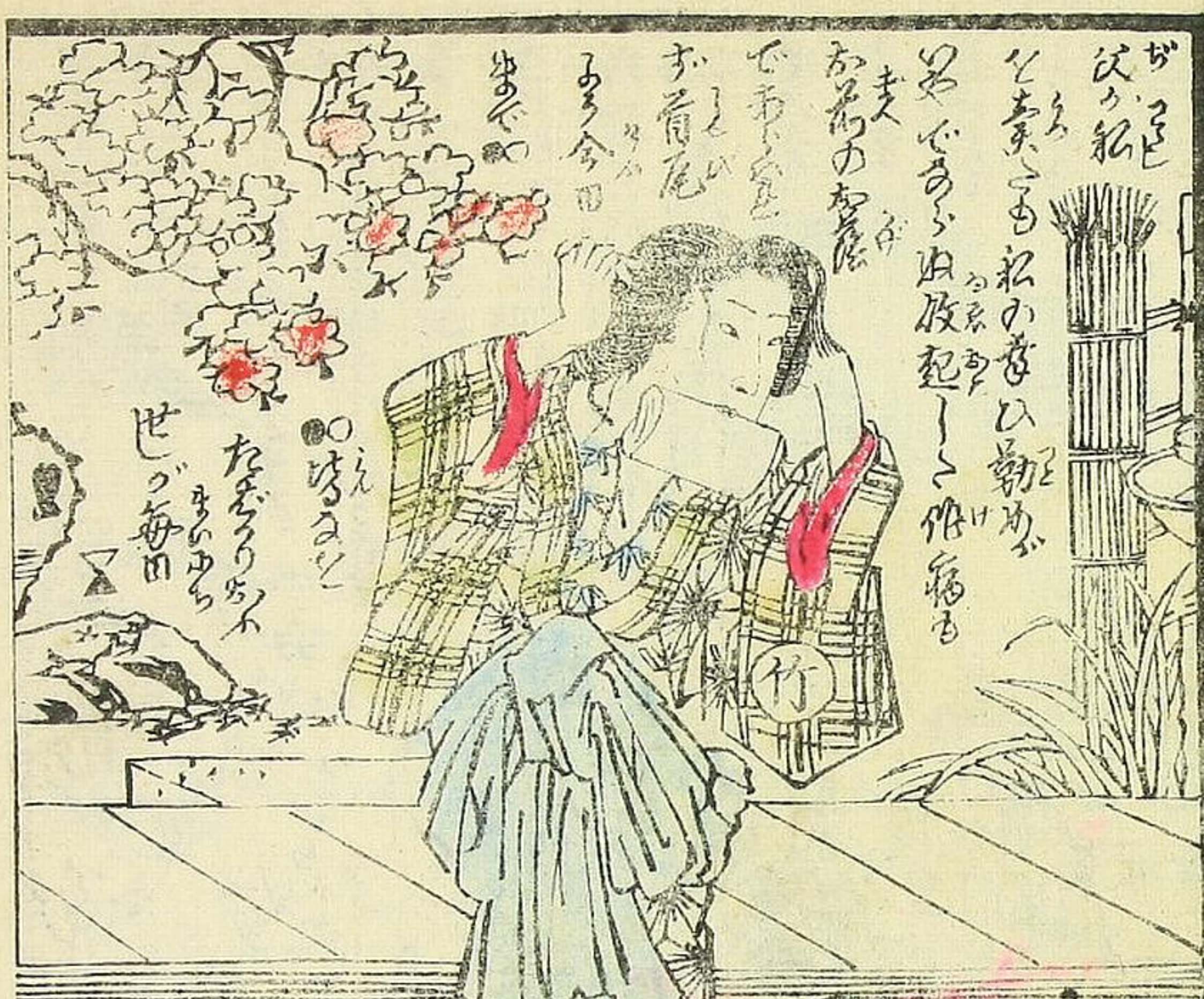
世々今世の世々今世
世々今世の世々今世
世々今世の世々今世
世々今世の世々今世
世々今世の世々今世
世々今世の世々今世
世々今世の世々今世
世々今世の世々今世
世々今世の世々今世
世々今世の世々今世

世々今世
世々今世
世々今世
世々今世
世々今世
世々今世
世々今世
世々今世
世々今世
世々今世



世々今世
世々今世
世々今世
世々今世
世々今世
世々今世
世々今世
世々今世
世々今世
世々今世

世々今世
世々今世
世々今世
世々今世
世々今世
世々今世
世々今世
世々今世
世々今世
世々今世



世々今世
世々今世
世々今世
世々今世
世々今世
世々今世
世々今世
世々今世
世々今世
世々今世

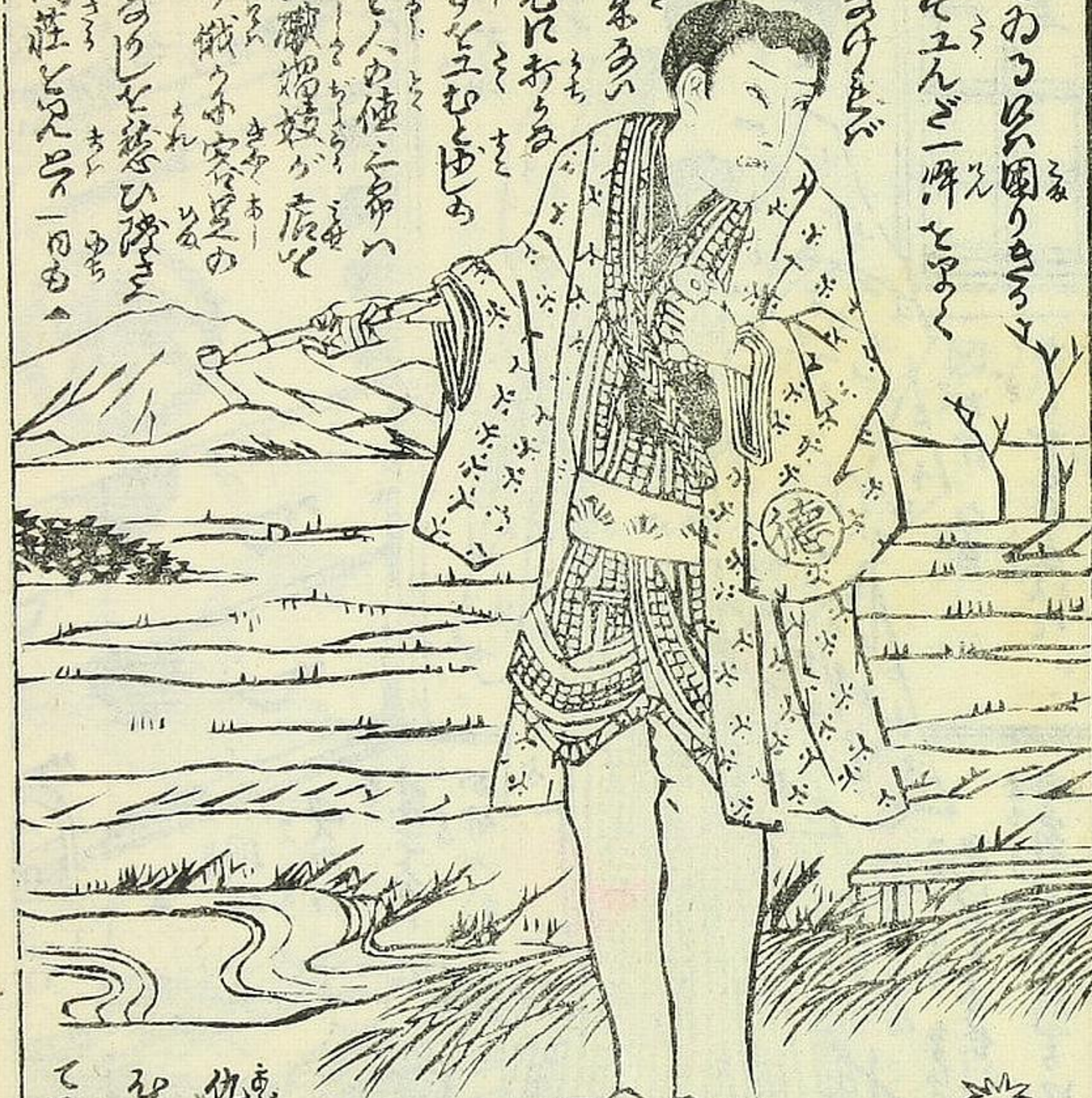
世々今世
世々今世
世々今世
世々今世
世々今世
世々今世
世々今世
世々今世
世々今世
世々今世

ついでに... 早く全快... 切の切...

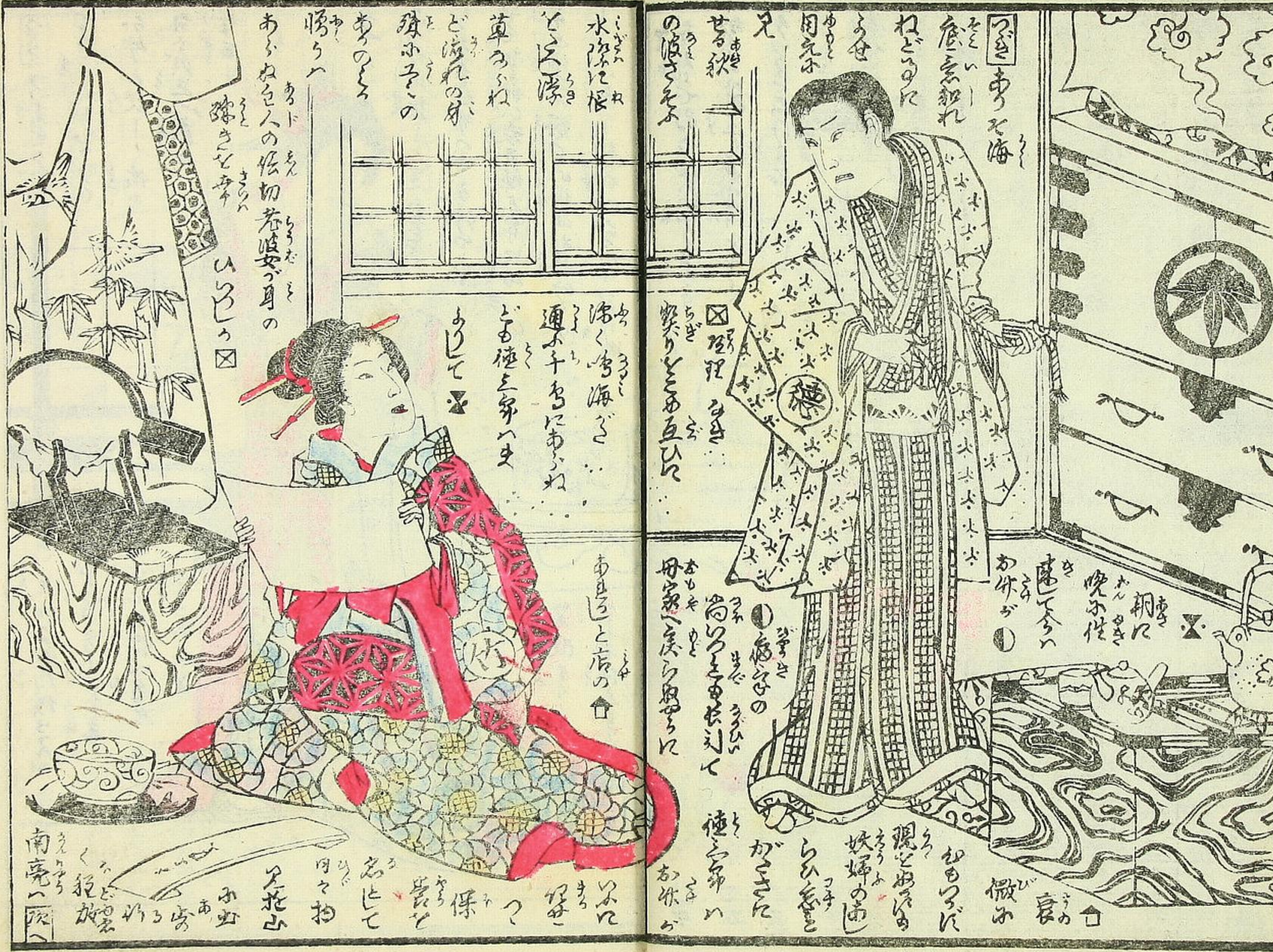


あま... ね... ね... ね...

あま... ね... ね... ね... ね...



あま... ね... ね... ね... ね...



つぎあらうと海

念ふ念ひ

ねどらぬ

ふせ

用元

の波さそふ

水際には根

とと深

草もらぬ

と海れの身

珠もその

あつもの

勝らへ

あふぬる人の依切若狭女つ身の

跡きと幸

いしう

お休が

暮て今

晩お性

朝

お休が

母

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

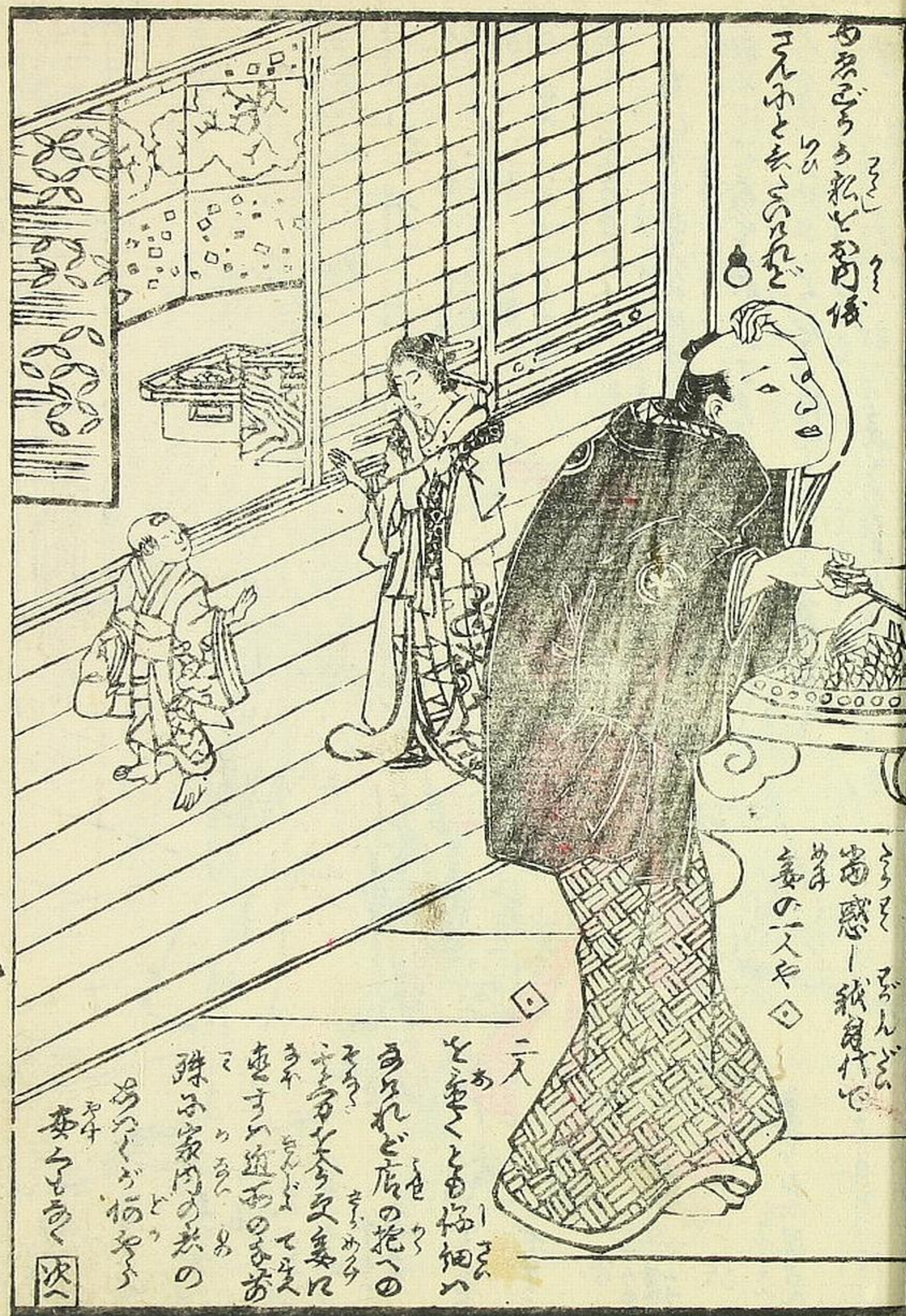
あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

あはれと店の合

南亮



あまごころをねとむり候
 こゝろとまことのれを

あまごころをねとむり候
 こゝろとまことのれを

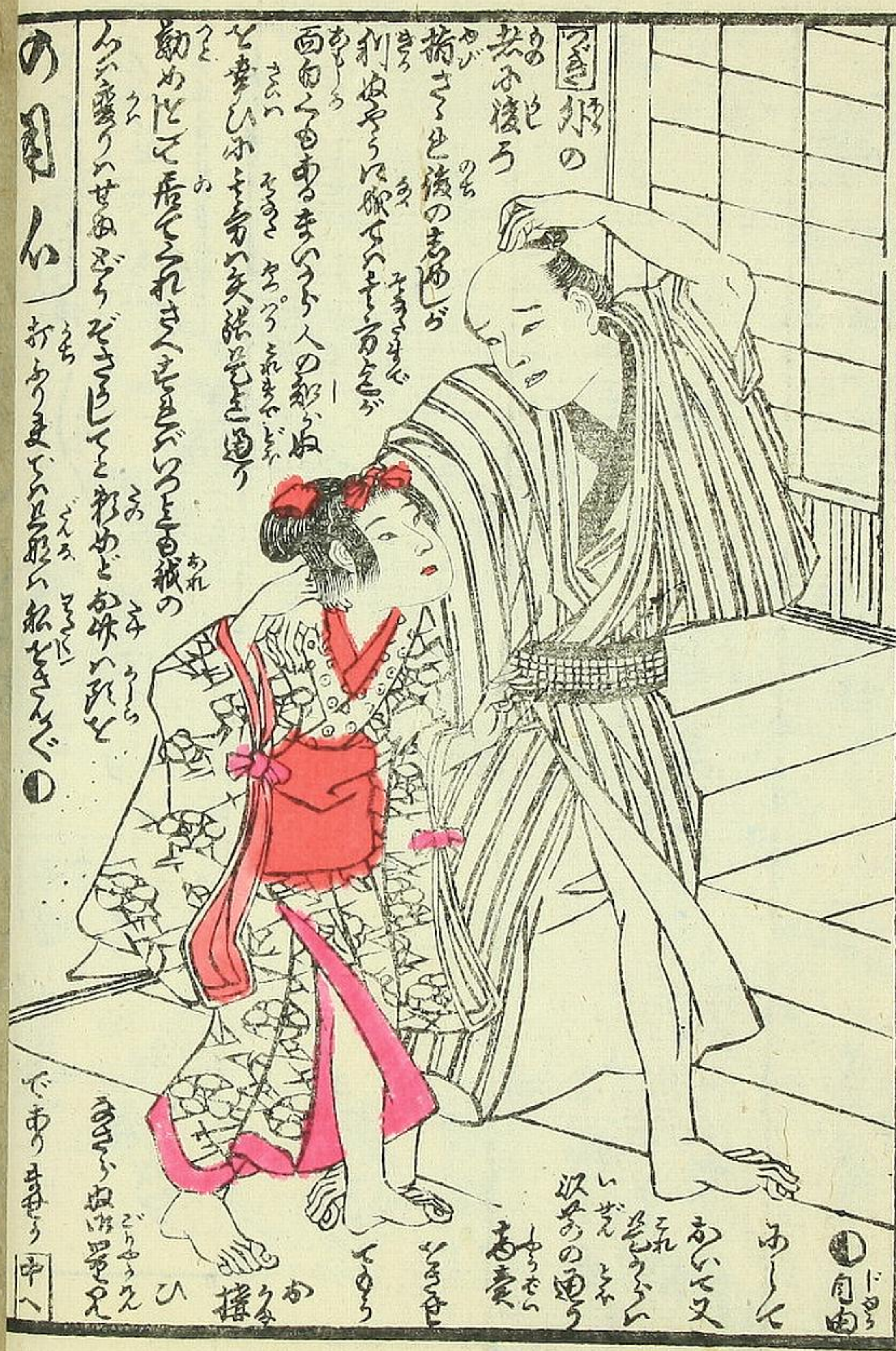
あまごころをねとむり候
 こゝろとまことのれを



あまごころをねとむり候
 こゝろとまことのれを

あまごころをねとむり候
 こゝろとまことのれを

あまごころをねとむり候
 こゝろとまことのれを



鳥田一郎梅雨日記

芳川春海撰 三冊分入り
岡本起東編 五編

其名高橋 毒婦小傳 東京奇聞 同

七編

白首阿繁顛末 同

三編

坂東彦三倭一流 同

三編

澤村田之助曙草紙 同

五編

御所櫻梅松録 鶴亭秀實作

二冊袋入
十五編

龜 地本問屋 島鮮堂 網嶋龜吉

浅草瓦町十二番地



岡本起泉綴

二編中



浦ほらりー 二角ん
 おらさる 中の
 ろいさの
 まくが死
 芳川長清園
 長本起泉楼
 横高、月輝画



上より... (vertical text at the top left)

さふ徳之弟も涙ぐまき
 のふかてあの子の影のな
 らあや今暫く縁でまはら
 引せたる通うはてな
 出まへ幸抱くとと様
 せと昔ぬの書てあま
 ぞと涙を拭ひつそを
 が甘く私を教へてま
 まごおがあのま
 旦那の如くあるのま

● 打つて... (vertical text at the bottom left)

ありませらねに
 のの
 撥ふ
 ても
 ころか
 と
 旦那の
 まま

河内二和

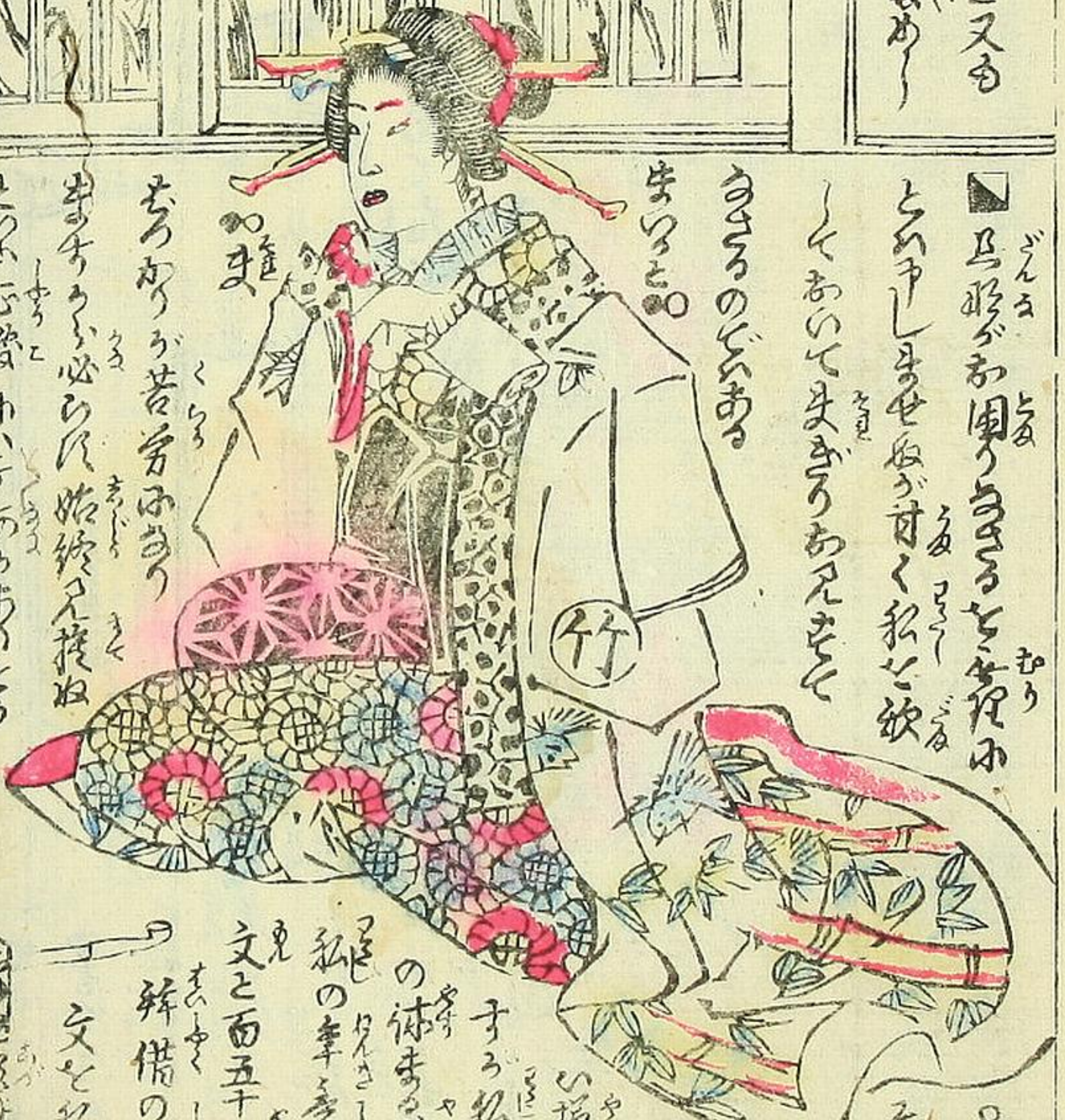


口端で多うまると又も
海棠

のるせや
に風情き
秋ひの沈む
お休ご容又
ひとまの丸
今更の格に
あひて極三
身へ恍惚と
暫く云ふ

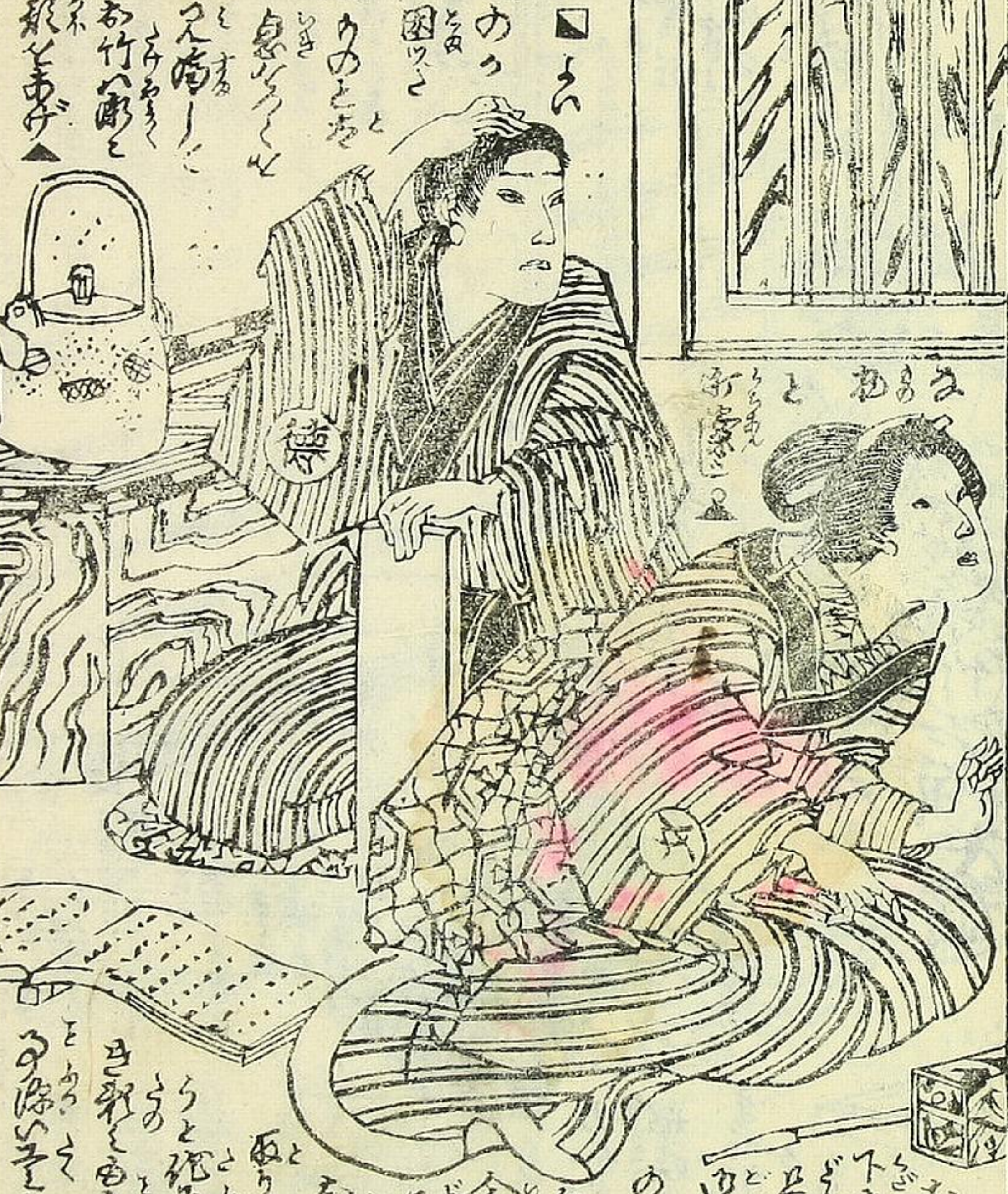
馬形が周囲うきまると
とくしませぬが寸くねに
くあいてまきりあえさ
あまのふあ
まのこ
あまのふあが若きあま
あまのふあが必りあまの
このふああまのふあ

すの松の心
の体まるに
私の年と幸
文と面五千
拜借の証
文と終へ



自由の心
あまのふあ
あまのふあ
あまのふあ

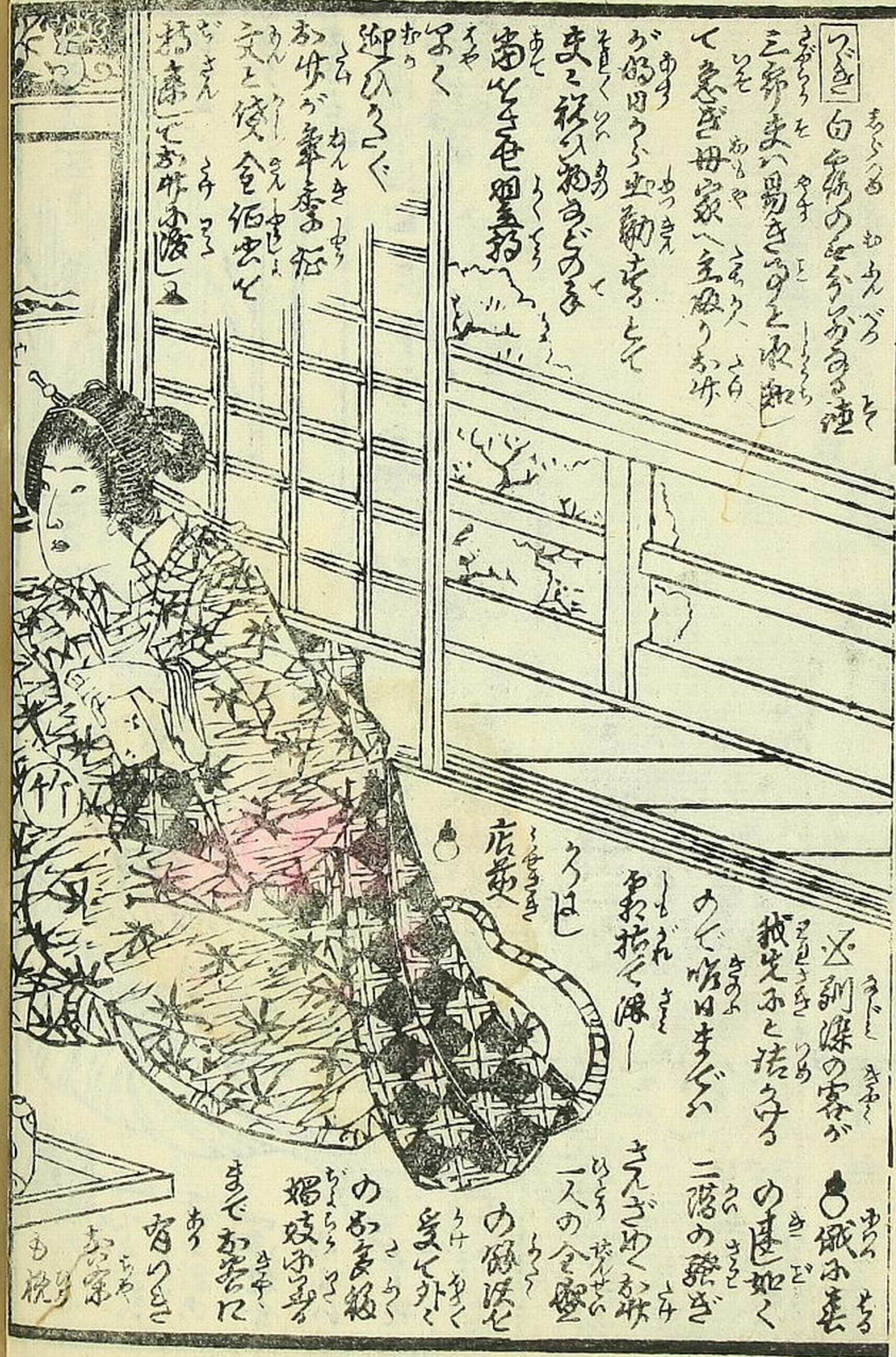
宿帳
入帳



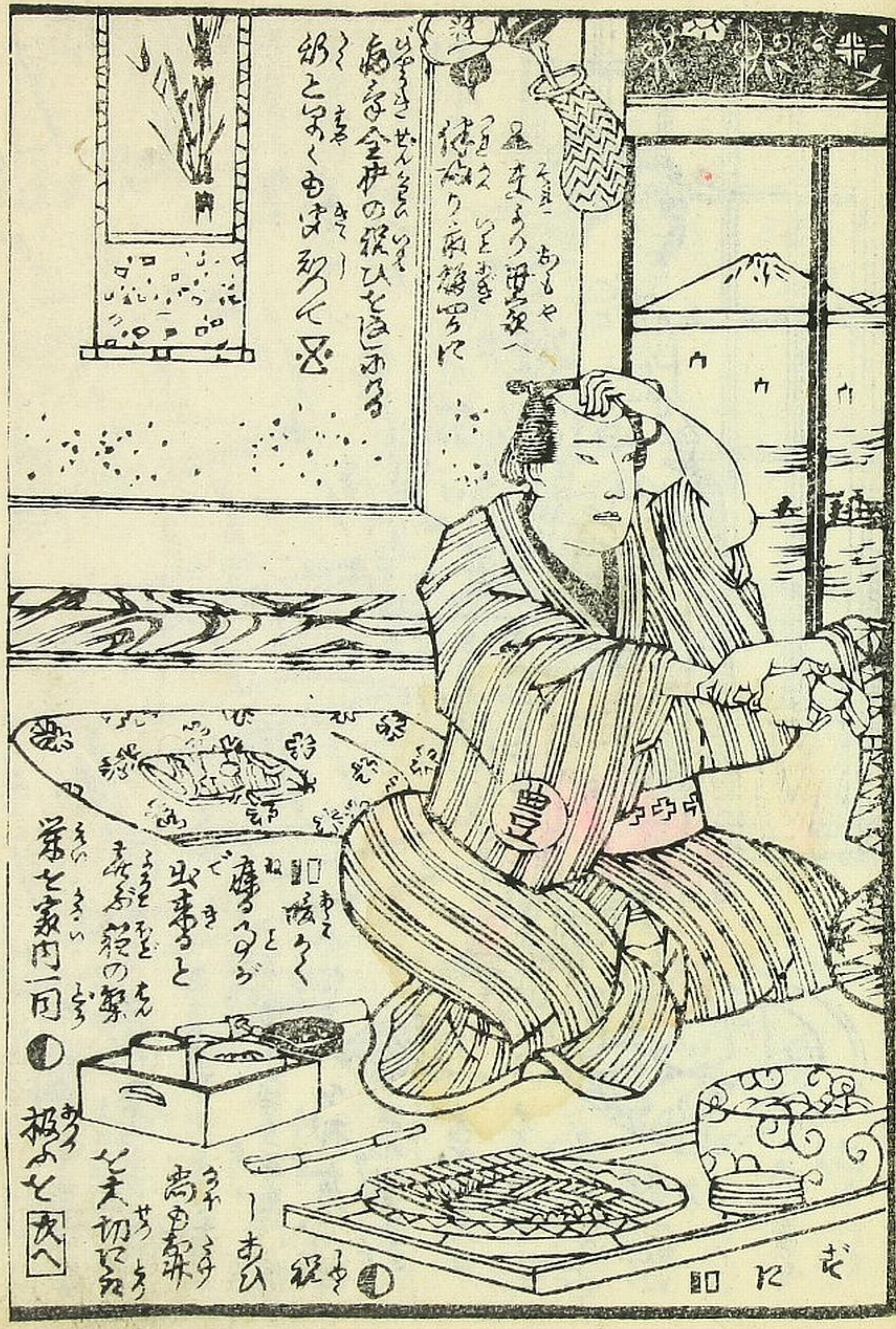
あまのふあ
あまのふあ
あまのふあ
あまのふあ

あまのふあ
あまのふあ
あまのふあ
あまのふあ
あまのふあ
あまのふあ
あまのふあ
あまのふあ
あまのふあ
あまのふあ

あつちのわがぢやう
 つき 白糸のなまがらふる
 三節まへ易きまのてぬ
 て急ぎ母の家へまぬりおけ
 がの田うらぬ勤まると
 まのむらむら
 赤い子色
 御ひるく
 おけが奉承
 文と候金伯
 持来ておけ



必 刺の客が
 我定ふと法
 ので明日ま
 二階の
 の御
 受て外
 のおま
 招妓
 ままお
 宵の
 お家
 も枕



あつちのわがぢやう
 つき 白糸のなまがらふる
 三節まへ易きまのてぬ
 て急ぎ母の家へまぬりおけ
 がの田うらぬ勤まると
 まのむらむら
 赤い子色
 御ひるく
 おけが奉承
 文と候金伯
 持来ておけ

必 刺の客が
 我定ふと法
 ので明日ま
 二階の
 の御
 受て外
 のおま
 招妓
 ままお
 宵の
 お家
 も枕

面小春が怒り
 名世指に笑あて
 顔はとあ休む人
 ま助の



お備をよ返す
 自伴お茶の自由は
 ありまのと云はてお許の
 奇美と云ふ雨出た通
 の伝を
 と押戻け内儀
 さん一すはを
 さんておんこ
 さんておんこ
 子のお膝で
 巻く松に
 下まこ
 け伝文を
 結る

△お入る容
 と改めつと下裏に
 なせつて人をとて
 名をなき山尼今と
 け何とおれの申しあす授上
 もろく嫌小為中へ一方も
 且お振の山尼今と
 お別は甲さくお後り指う
 れどいつまでもおる様
 何人か情む心小慶
 うら私へ今日お喚
 由まぬ口上小徳
 どのとぬと女おの
 不審と様



△お入る容
 と改めつと下裏に
 なせつて人をとて
 名をなき山尼今と
 け何とおれの申しあす授上
 もろく嫌小為中へ一方も
 且お振の山尼今と
 お別は甲さくお後り指う
 れどいつまでもおる様
 何人か情む心小慶
 うら私へ今日お喚
 由まぬ口上小徳
 どのとぬと女おの
 不審と様

常の異
 竹の節
 換ふ合
 中か
 台の者
 を推す
 時徳
 守小

返止て之籍を
 店の一因
 中時
 同人の情
 不
 冷
 甘



つま
 何
 心
 出
 眼
 おん
 ちの

人々
 孝
 お
 貴
 さ
 罵
 ぐ
 小
 何
 女
 娘

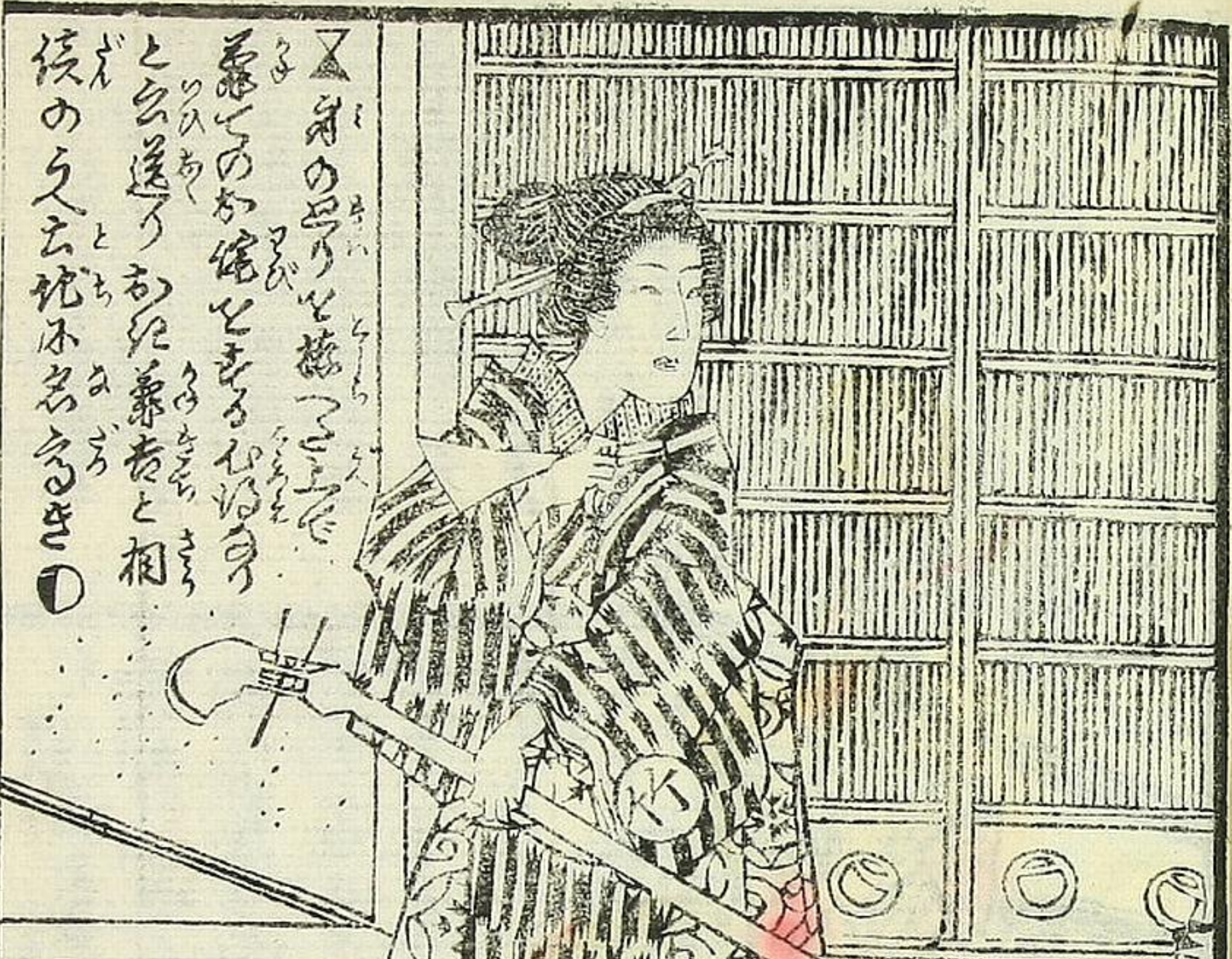
見たりと云ふは... 観世音菩薩の... 先方か... ありて酒合に... お代地へ向け...



判官松丸の...

一人七引受け如才よく... 主働なる...

かやと... 福人へ... さらぬ... お世く...



子... 候の久云地... 候の久云地... 候の久云地...

雇女... 五十... 候の久云地... 候の久云地... 候の久云地...

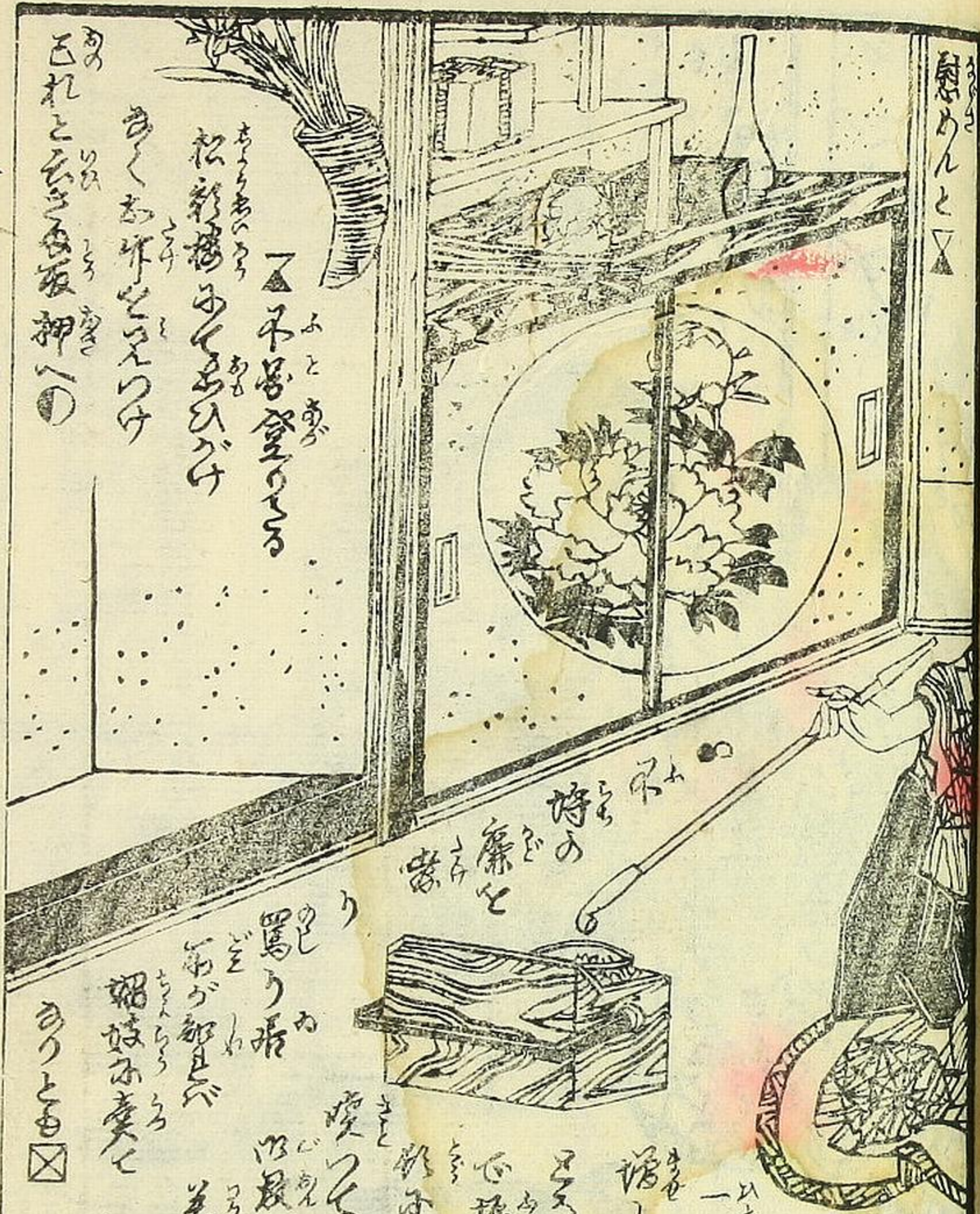
救と知りぬ
 おけい今い自由
 多く常職とせせと
 鳥さう常職の沙汰
 白けとひも浮赤
 呂あむくと後以
 多くの月日と境
 明治十年の六月
 とよりし因商用の
 ありとて強世
 清久徳村の
 とさき人
 尾松たあ
 後の花と



せん年を
 海は夜逃
 せし

☒

枕をもちま交金の
 ままを疾すと
 のひり上もあれ
 一雨に雨来へ
 引さるる夏
 月とをせ
 すにあく
 ののちと
 後立修
 且一匹の
 強く云
 一がは
 救の



不登堂の
 松影揚めてあひけ
 きくお作をえけ
 されと云き板押へ

可々二中

必あとうり
 ぶとやふ名
 口垢接て又
 一人の養致を
 湯一交にん
 さらけみえ後人
 心振あげ果
 於小下さぬとま
 瘦つてあけは
 心腹を色
 罵り指
 一雨に雨来へ
 細枝もま
 ありとも
 夜逃を世
 室と名増

☒

つぎこくじ
 後海世
 祝由面が合せぬ
 胎末お産中
 傍り白く流る
 まつて旅しい
 稼業に苦
 世も皆さる
 や雨



掛らだ
 かーのる
 楽せし
 又も出
 以てま
 せん
 狼心な
 一が飯
 へ扱と
 云々巧
 小け方の家
 以面五十
 の備絨が

胃と今父あひあう
 辰ま〜あられ不
 お免〜と服さふ
 お産入ると実と
 けくそそであろ
 とんり〜以
 るうそふじ
 やう再あ
 の人々々

一まう
 あけん
 いまそ
 きひ一
 脱遣
 のお
 オイそれ
 と
 悪く
 赤
 赤
 赤

ついでに... 例の... 格め... 上... 不... 農... 遊... 家... 子...

七冊



波風... 家... 若... 親... 夫... 逐... 痛... 生... 下...

命之養生善惡鏡

新刊 一冊 教訓善惡図解 一冊

清書

五十二 詩 一冊 志 一冊 繼

小水 折本

徳川年代鑑 一冊 大功記銘傳 八冊

日本 名所 神社佛閣 一冊 園 一冊

俳優忠臣藏 一冊 色入小本 一冊

色圖 單語圖解 一冊 魔島紀事 一冊

龜 地本 錦繪 問屋 島鮮堂 網島龜吉

櫻齋房種画



島鮮堂梓

二編下



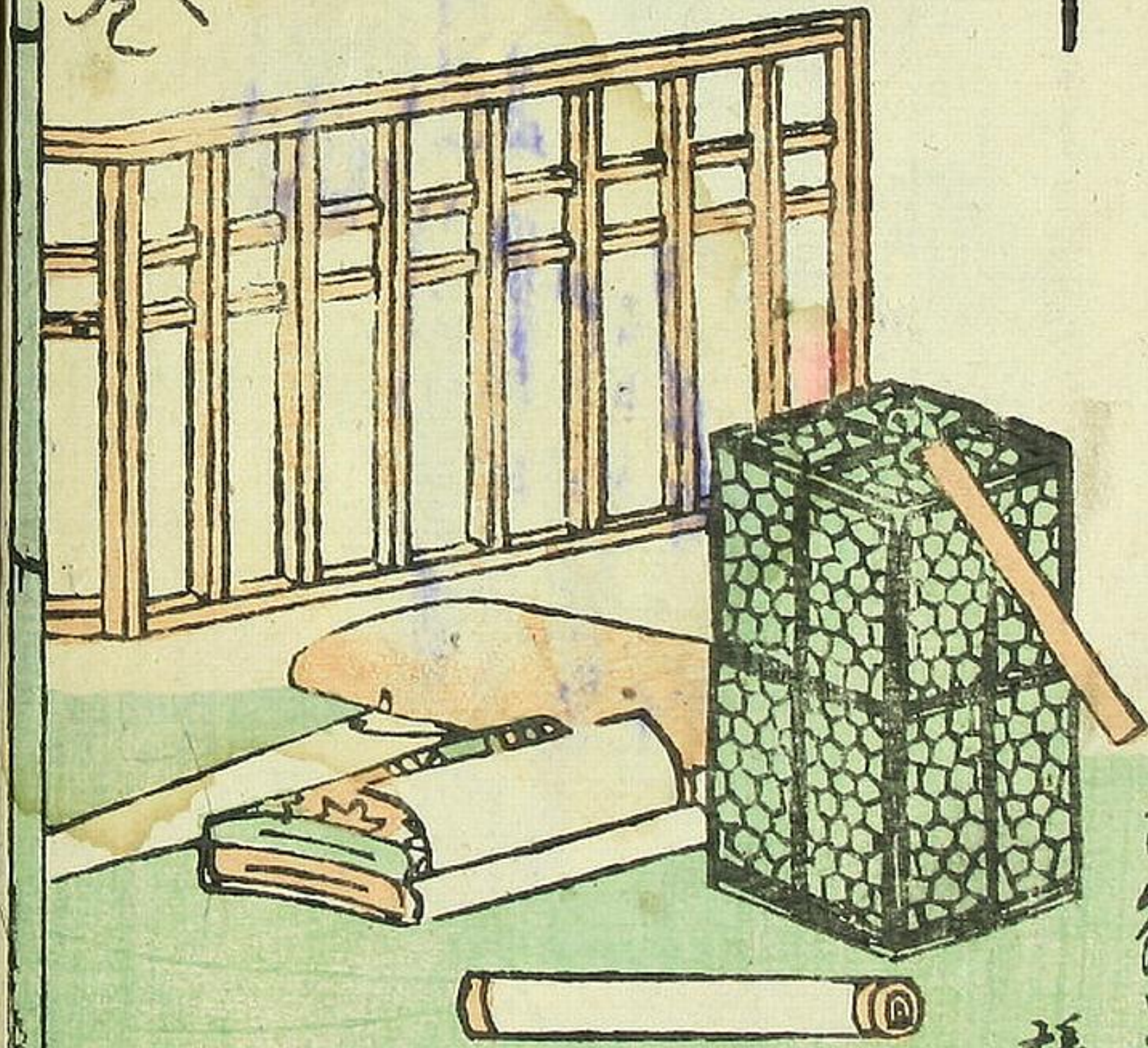
幻阿牛

考の

写書

二巻

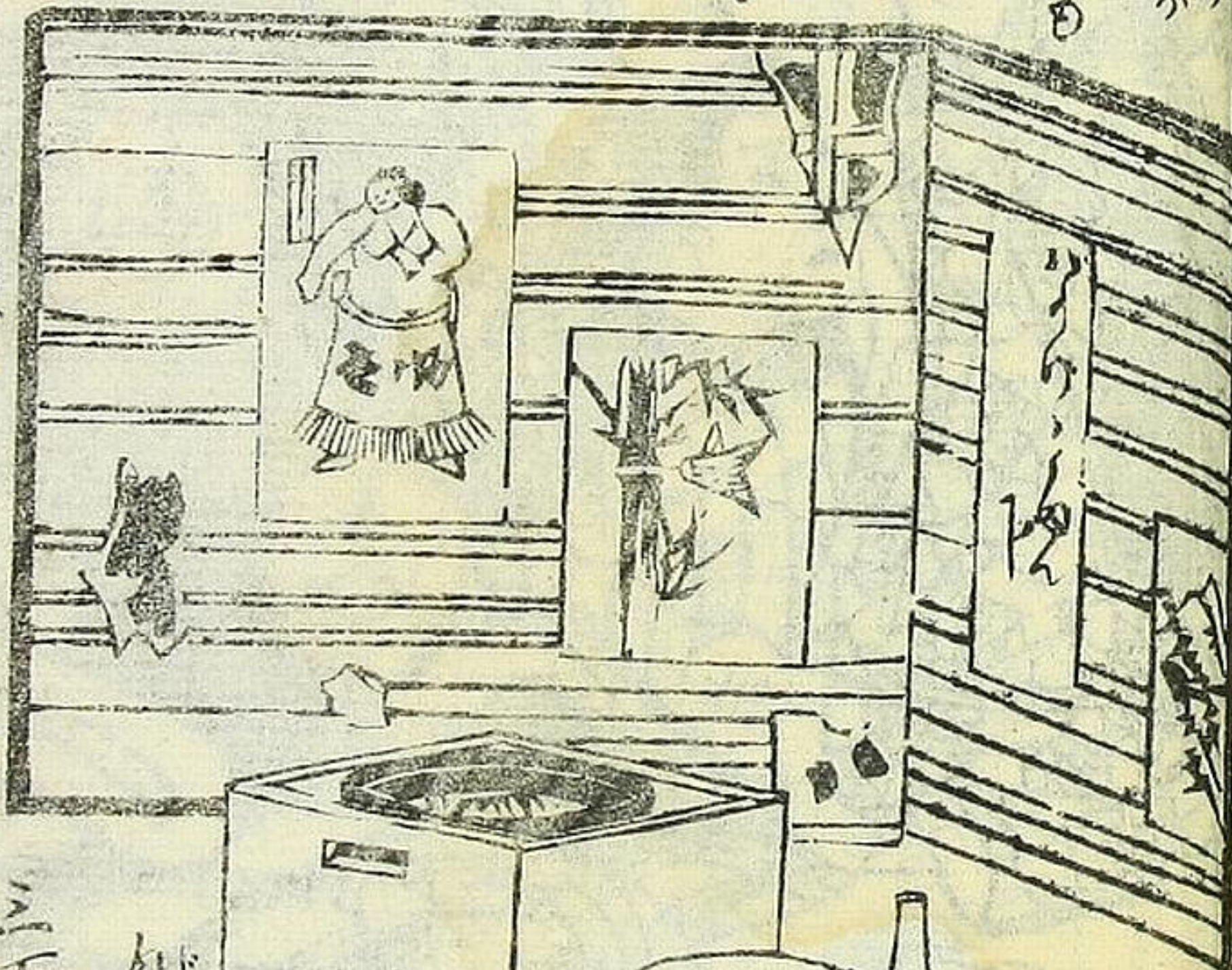
下の巻



高麗草

拜

中々... 頭... 不審... 逐... 易... 級... 廿... 一... 十... 採...



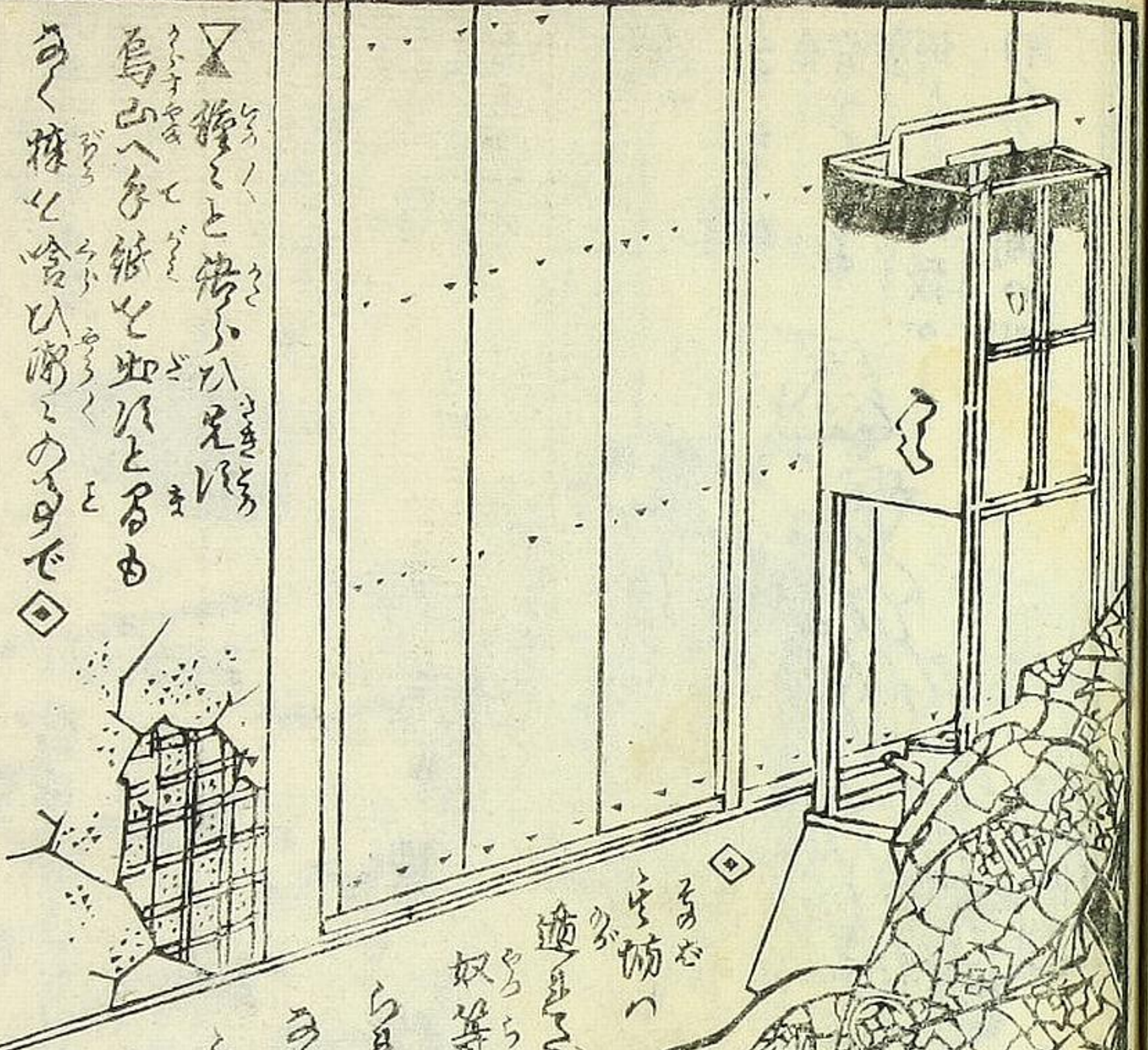
... 三... 自... の... 里... 方... 子... 嫌... 二... 全... 中... 採...

可竹二下

〇 何れも...
 尊相...
 持...
 小...
 通...
 徐...
 世...
 切...



〇 貞...
 新...
 〇 引...
 〇 収...
 〇 袋...
 〇 〇...



〇 〇...
 〇 〇...
 〇 〇...

〇 〇...
 〇 〇...
 〇 〇...
 〇 〇...
 〇 〇...
 〇 〇...
 〇 〇...
 〇 〇...

一寸の面月も
一寸の面月も
一寸の面月も

今この世を
今この世を
今この世を

何ともし
何ともし
何ともし

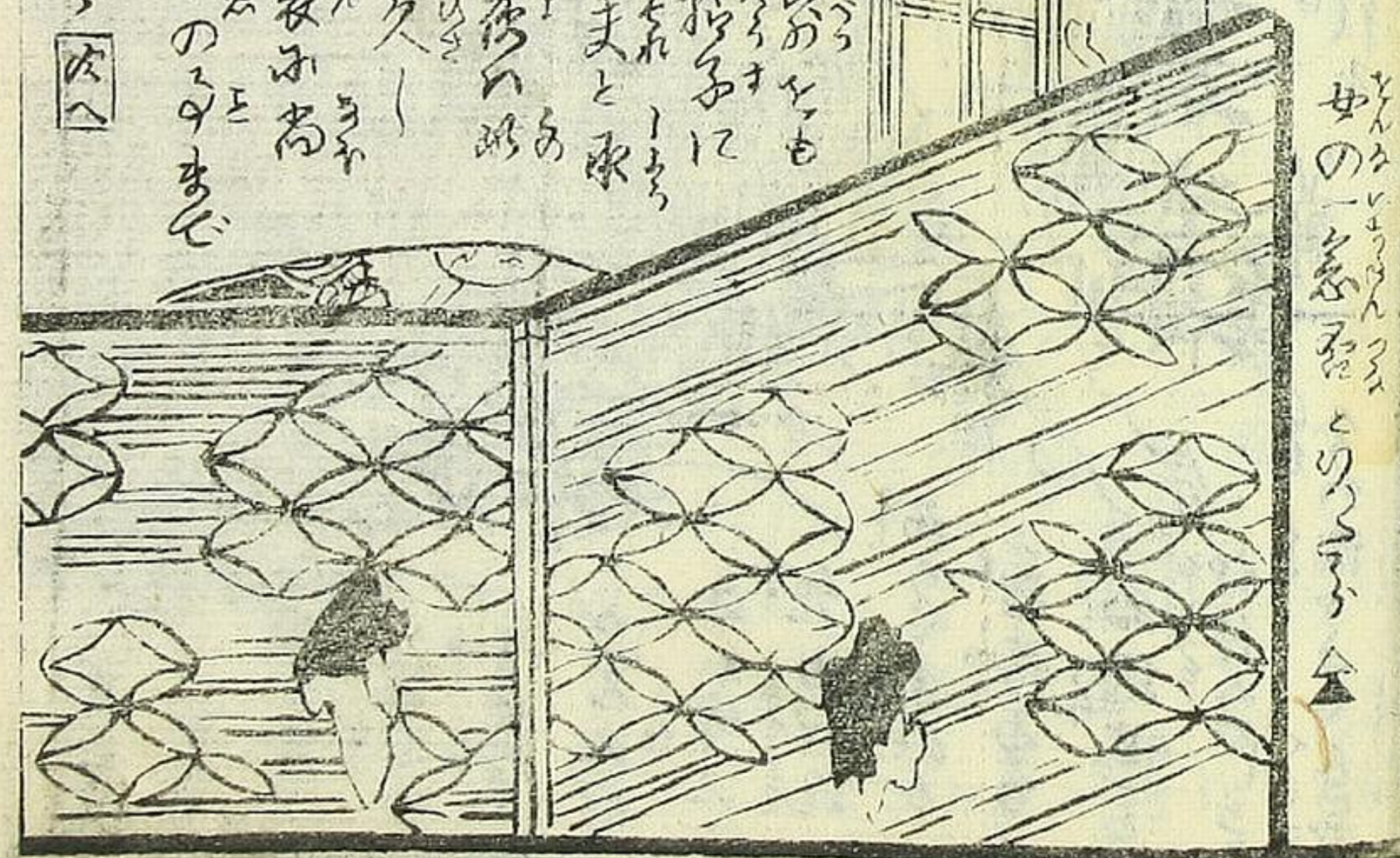


不測の今宵
不測の今宵
不測の今宵

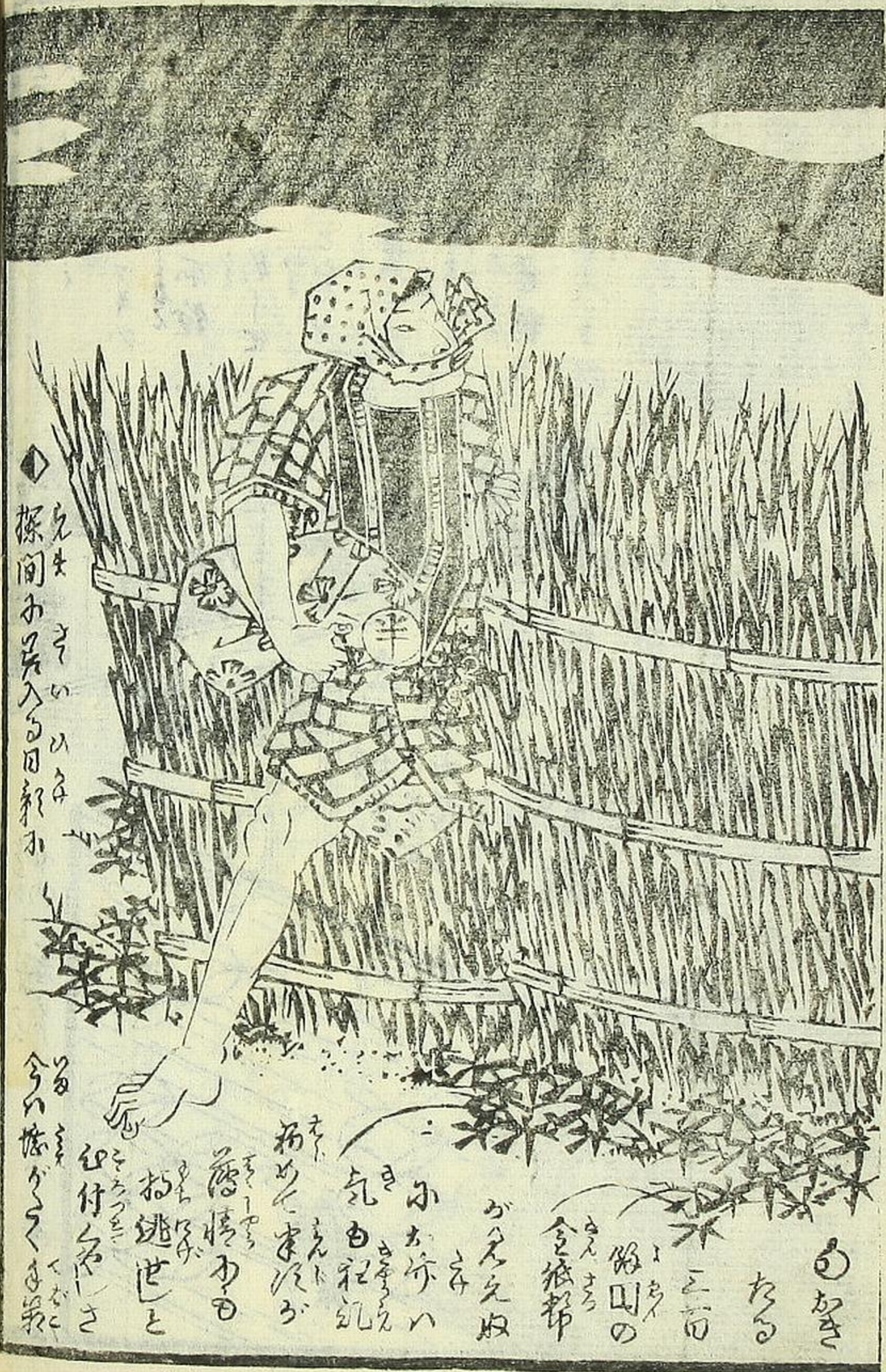
いかに地とま

いかに地とま
いかに地とま
いかに地とま

いかに地とま
いかに地とま
いかに地とま



女の一人を



探問の入り目録

白き
 たる
 三石
 路山の
 金根帯
 がええぬ
 小おゆの
 気白社
 病めを
 落懐おも
 お逃世と
 仕付る
 今の様か

登るき藤丸は髪と櫛あげあぐら
 脚と藤丸と起出に家内と
 足はのすはが病を相い何
 物一と兼吉も同いどか
 細くぬとゆに不審なる
 森へ移り昨夜
 木にか取持る
 色々と採せとま
 さえええの跡を
 ねがッスリ藤丸
 隙に逃去けり何
 あはれかやと手おの
 知りつを護せが
 以方の様う病
 皮へ

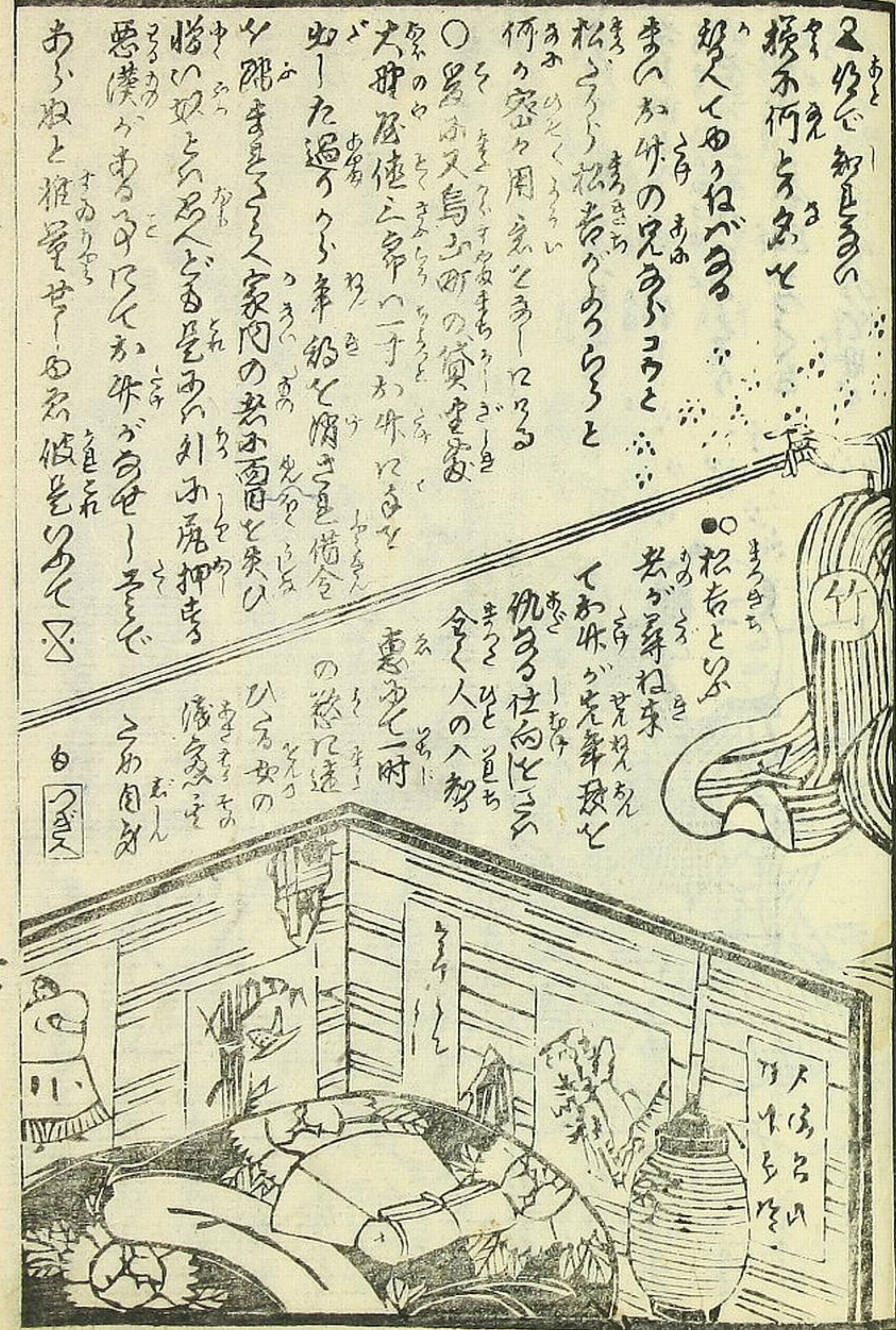




わたくし
とよく
火工の海
仕上り使

※掛合バ又
も云々
全に云々
まの云々
ての云々
中へ云々
焦れ云々
女児云々
店云々
微云々
年云々
後云々

竹
松若と云
若が舞ね来
てお休か
仇云々
合云々
恵云々
の云々
ひ云々
白云々



又
松若と云
若が舞ね来
てお休か
仇云々
合云々
恵云々
の云々
ひ云々
白云々

つき 雅

俄か出

合今

ま

後悔

し

あれど

何の面

さげて

あつと

おぼや

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと



ありませうが那にか作

がひらひら

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと

あつと ありませうが那にか作



あつと ありませうが那にか作

あつと ありませうが那にか作

あつと ありませうが那にか作

あつと ありませうが那にか作

あつと ありませうが那にか作

あつと ありませうが那にか作

あつと ありませうが那にか作

あつと ありませうが那にか作

あつと ありませうが那にか作

あつと ありませうが那にか作

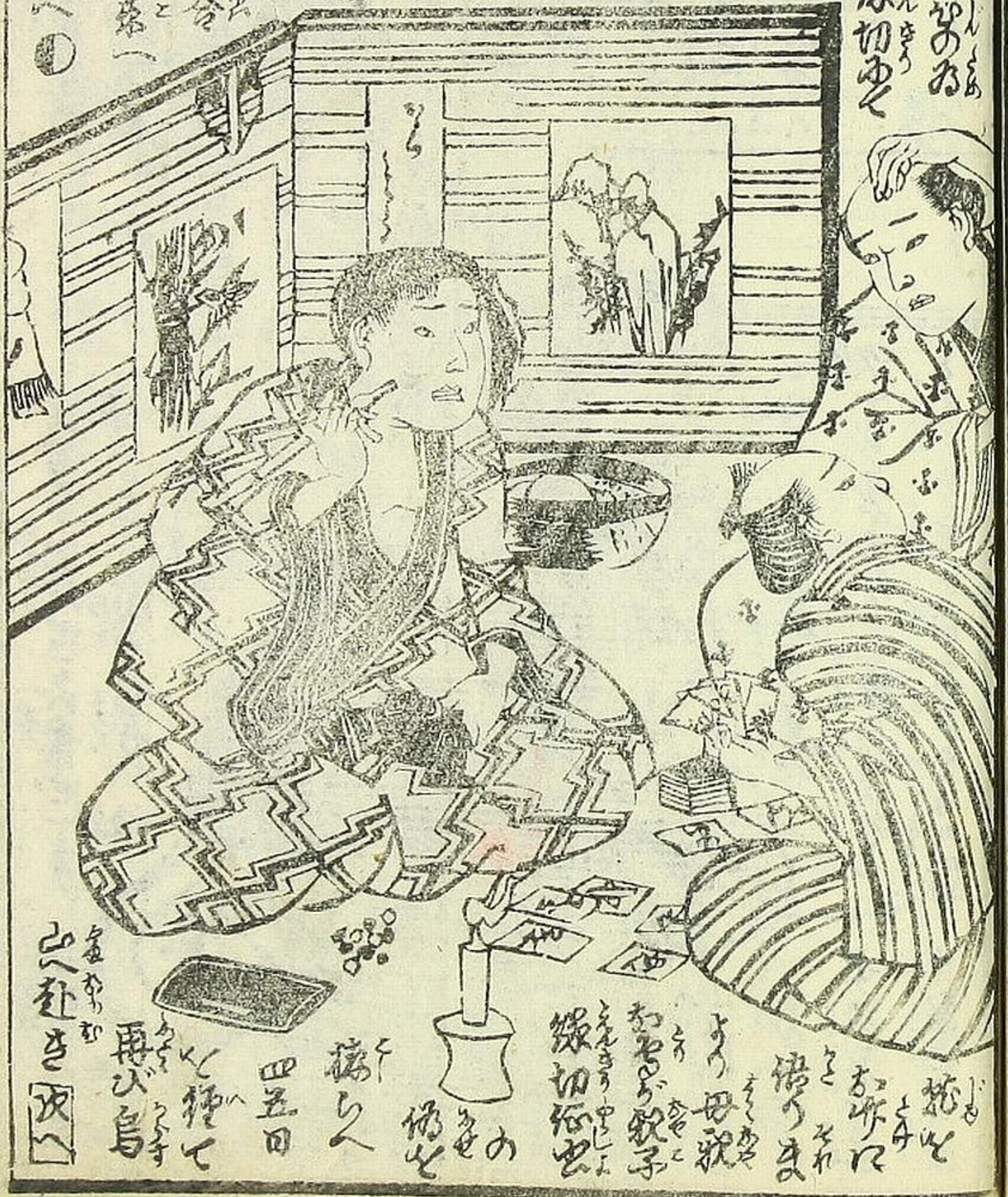
あつと ありませうが那にか作

あつと ありませうが那にか作

あつと ありませうが那にか作

あつと ありませうが那にか作

小水船せりぐり相おの
 とくは上へ就子縁切ぬ
 人あつと共たれを
 一あふをそやと
 ちて備うあふ
 金百五十圓と送
 る絶小一日あふ
 松を夢ひひのと
 の流一は兼家の
 松をの森ひ終
 と存懐ささお合
 一終ひまらふ贈
 度り不母あへ



松
 おおに
 備うあ
 ちて母
 ちて親
 縁切松
 松の
 四五日
 松の
 再び鳥
 松の

ありま
 すと巧
 徳を
 微せ
 早達



安
 の藉
 村
 の合
 敷
 分
 早
 た
 兼

七
 七



島田一郎梅雨日記

芳川春海関 五冊 貸入り
岡本起東殿 五冊 よき切

其名高橋 毒婦小傳 東京奇聞 同

同 七冊 よき切

白葛阿繫願末 同

同 五冊 よき切

坂東彦三倭一流 同

同 三冊 よき切

澤村田之助曙草紙 同

同 五冊 よき切

御所櫻梅松録 鶴亭秀實作

二冊 貸入り
十五冊 下出

龜地本問屋

浅草區瓦町二番地
島鮮堂 網嶋龜吉

010190513551



幻阿作遊之
寫書笈二編

芳川窓 岡本綴
梅高画 鳥録生

